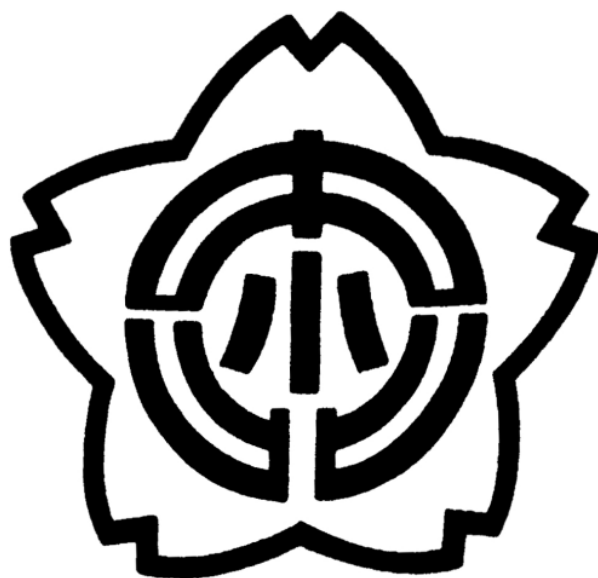


令和6年度

いじめ防止基本方針



令和6年4月改定

多可町立中町北小学校

多可町立中町北小学校 いじめ防止基本方針

はじめに

近年、急激な社会情勢の変化の中で、SNSによるいじめの増加等、「いじめ問題」はますます複雑化、潜在化しており、生徒指導上の喫緊の課題である。こうした中、全教職員がいじめという行為やいじめ問題を正しく理解し、組織的にいじめ問題に取り組むことが求められている。

国においては、平成29年3月「いじめ防止等のための基本的な方針」の改定、兵庫県においては、「兵庫県いじめ防止基本方針」の改定が行われた。さらに、「多可町いじめ防止等に関する条例」「多可町いじめ防止基本方針」制定の趣旨を踏まえ、本校におけるいじめ防止の基本方針を策定するとともに、令和2年に「多可町いじめ防止対策改善基本計画」が示されたことを受け、見直しを図った。

Ⅰ いじめ防止基本理念

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法第2条）

(2) いじめに対する基本的な考え方

「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得るものである」さらに、「いじめは人として絶対に許されない行為である」という認識を全教職員で共有し、いじめの根絶に向けての取組を進める。日常的に危機感を持って児童観察等にあたり、児童の実態把握を通して、平素から風通しの良い人間関係づくりを行うとともに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。いじめが認知されたときには、担当教員等が一人で抱え込むことなく組織的に迅速かつ適切な対応により、早期解決および再発防止に向けて取り組む。

(3) 教職員が持つべき、いじめ問題についての基本的な認識

- ・ いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得るものである。
- ・ いじめは人権侵害であり、人として決して許される行為ではない。
- ・ いじめは大人には気づきにくいところで行われることが多く発見しにくい。
- ・ 嫌がらせやいじわる等、多くの児童生徒が入れ替わりながら加害も被害も経験する。
- ・ 暴力を伴わないいじめであっても、繰り返しされたり、集中的に行われたりすることにより生命、身体に重大な危険が生じる。
- ・ いじめは、その態様により暴行、恐喝、強要等の刑法法規に抵触する。
- ・ いじめでは、加害・被害の二者関係だけでなく、いじめを助長する観衆、いじめに暗黙の了解を与えてしまう傍観者も存在する。この傍観者から仲裁者への転換を促すことが重要である。（県教委「いじめ対応マニュアル」 H29.8 改訂版より）

2 いじめ防止の指導体制

(1) いじめ対策委員会の設置

- ・ 校長、教頭、生活指導担当、養護教諭、学級担任、スクールカウンセラー等から構成するいじめ防止対策のための「いじめ対策委員会」を設置し、原則、月1回の開催において、平素から児童の実態を把握し、未然防止に努める。いじめ等の事

案が発生した場合には、情報共有、指導方針等について迅速に協議し、組織的対応を行う。

(2) 情報交換及び共通理解

- ・平素から問題行動における情報共有はもちろんのこと、情報収集および指導内容等について校務支援システムの生徒指導台帳等を用いて記録しておく。また、職員会議やアイアイタイム（近似学年会）で情報共有を行うとともに、全教職員で配慮を要する児童の現状や指導のあり方等について協議し、情報共有および指導方針等について共通理解を図る。

(3) 指導体制の充実

- ・日々の業務改善を図るとともに、一層、子どもと向き合う時間の確保に努め、いじめ防止対策の充実に取り組む。
- ・いじめ防止に向けた取組状況を年間2回（10月・2月）の学校評価で定期的に点検・評価し、一層の指導体制の充実を図る。

3 いじめ未然防止のための取組（※年間指導計画は別表）

(1) 「いのちと人権の日」の取組

- ・毎月1日、「いのちと人権の日」には、児童会役員のリードで「多可町子ども憲章（いのち・人権）」を唱和する。また、児童朝会において、「いのちと人権」の尊さについて講話等で話すとともに、児童アンケート等を活用し、「うれしかったタイム」で児童の良い行動等を紹介する。

(2) 学級経営の充実

- ・生活ノートやアンケート調査結果等を活用して児童の実態を十分に把握し、よりよい学級経営に努める。
- ・児童が「分かる・できる授業」を目指し、お互いの個性や良さを認め合うとともに、児童一人一人が成就感や充実感を味わえる授業づくりに努める。
- ・児童が学校生活を安心して送れるよう居心地のよい居場所作りに努める。

(3) 道徳教育・人権教育の充実

- ・「考え、議論する」道徳授業の充実に努めながら、授業を通して道徳的実践力を育成するとともに、児童の自己肯定感を高める。
- ・「人権コアカリキュラム」の取組等、全教育活動において人権尊重の精神や思いやりの心を育て、人権文化の醸成を図る。

(4) 課題教育の充実

- ・福祉教育、ふるさと教育等を通して思いやりの心やふるさとを愛する心を育む。

(5) 特別活動の充実

- ・異年令集団による縦割り班活動等の中で、協力したり協調したりすることを通して、人とより良く関わる力を身に付けさせる。
- ・学校行事等を通して、自己肯定感や自尊感情の育成を図る。

(6) 情報教育の充実

- ・講師を招聘した情報モラル学習会を開催し、情報モラル意識の高揚を図る。
- ・「小学生は夜9時以降SNSやりません運動」を推進し、家庭と連携しながらSNSルールづくり等、情報モラル教育の充実を図る。

(7)こころの健康教育の推進

- ・児童が自分の心と向き合い、ストレスに対処する方法等を身に付けるために、ストレスマネジメントプログラムを活用した「こころの健康教育」を推進する。

(8)教職員研修の充実

- ・いじめ防止基本方針の共通理解、いじめ防止未然プログラムの研修、カウンセリングマインド研修等を通して、いじめ対応能力の向上を図る。

(9)学校相互間の連携協力体制の整備

- ・区内の小中こども園と情報共有等を行い、連携体制を確立しながら指導にあたる。

(10)保護者・地域・関係機関等との連携

- ・HPやPTA活動総会等を通して、学校いじめ防止基本方針の周知を図る。
- ・PTA人権研修会、道徳授業の公開等を実施し、学校・家庭・地域が連携していじめを生まない土壌の醸成に取り組む。

4 いじめ早期発見のための取組（※年間指導計画は別表）

(1)継続的な情報収集

- ・休憩時間や朝、放課後等のきめ細かい児童観察、ノートや日記指導等を通して児童の人間関係や悩み等の把握に努める。
- ・「学校生活相談シート（児童：年間4回程度 保護者：学期に1回）」を実施し、いじめの早期発見に努める。
- ・本校独自の「生活アンケート（学期に2回程度）」を実施し、基本的な生活習慣の定着状況やいじめ等の把握を行う。
- ・ストレスチェック（年間2回程度）を実施し、児童の内面を把握するとともに、気になる児童については全教職員で情報共有し、保護者とも連携しながら丁寧な観察、指導等に努める。

(2)教育相談体制の確立

- ・日常生活の中での教職員の声かけ等、児童が日頃から気軽に相談できる環境をつくとともに、必要に応じて定期的な面談等も実施する。また、相談内容によってはカウンセラーとも連携し、児童の悩み等を把握する。

(3)インターネット上のいじめへの対応

- ・学校での情報モラルの指導だけでは限界があるため、家庭での指導が不可欠であり、ルールを守ったSNSの使い方等、保護者と緊密に連携しながら取り組む。

(4)教職員間の組織的な情報共有

- ・「報告・連絡・相談」を徹底し、問題行動やいじめ事案、配慮を要する児童の情報等について、常に共通理解を図る体制を整える。

(5)保護者や地域、関係機関等との連携

- ・保護者、地域と学校間の信頼関係を築き、円滑な連携を図るように努める。保護者からの相談に対しては、家庭訪問や面談等を実施し誠実かつ丁寧な対応に努める。また、必要に応じて、教育委員会、青少年育成センター、民生児童委員会等の教育支援を得ながら取り組む。

5 いじめ早期対応と再発防止の取組

(1) いじめ認知による「いじめ対策委員会」の開催

- ・ いじめを認知した場合は、直ちに「いじめ対策委員会」を開催し、組織的に迅速かつ適切な対応により、早期解決に向けて全力で取り組む。

(2) 被害児童の安全確保

- ・ 被害児童の立場や気持ちに寄り添うことを第一として、児童の心の安定や安心な居場所づくりの確保に努める。

(3) 迅速な事実確認と情報共有

- ・ 複数教員により加害児童、被害児童、周囲の児童、保護者等から聴き取りを実施し、事実確認を行うとともに、随時、管理職や関係教職員等と情報共有の場を持つ。

(4) 指導体制の確立と適切な対応

- ・ 正確な事実確認をもとに、指導方針や指導体制を確立し、加害児童と保護者に適切な指導や支援を行う。併せて、被害児童と保護者に対しても、継続して適切な支援等を行う。
- ・ 事案の内容によって、「学校園支援サポートチーム」等の関係機関と連携し、支援を得ながら組織的に指導にあたっていく。

(5) 再発防止に向けた取組

- ・ いじめ問題解決後は、再発防止のため、経過観察（少なくとも3か月）を行うとともに、必要に応じて、被害児童や保護者に対する支援、加害児童と保護者への助言等を継続的に行う。
- ・ 必要があると認められるときは、被害児童や保護者の意思を確認し、被害児童の学習を、一定期間、別室で行うなど特別な措置を講ずる。

6 重大事態への対応

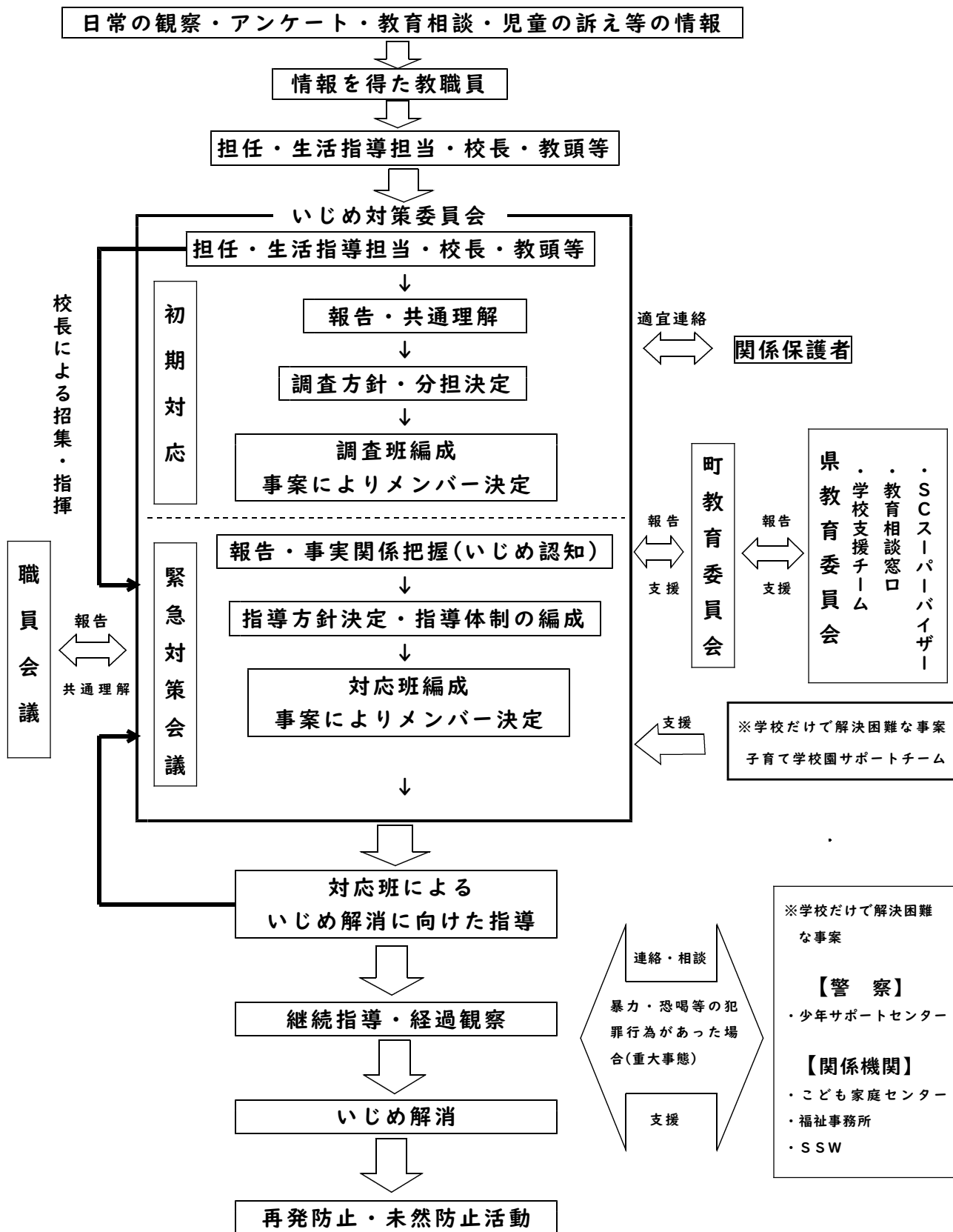
(1) 重大事態の定義（「いじめ防止対策推進法」より）

- ・ いじめにより、児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められる場合
- ・ いじめにより、児童が相当の期間学校を欠席する（年間30日を目安とし、一定期間連続して欠席している場合も含む）ことを余儀なくされている疑いがあると認められる場合
- ・ 児童や保護者から「いじめられて重大事態に至った」という申立てがあった場合

(2) 重大事態への対応

- ・ 重大事態が発生した旨を、教育委員会に速やかに報告する。
- ・ 教育委員会と協議の上、当該事案に対応する調査組織を設置する。
- ・ 調査組織で事実関係を明確にするための調査を実施するとともに、関係諸機関との連携を適切にとる。
- ・ 調査結果については、いじめを受けた児童及びその保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。

◇いじめ発生時の組織的対応の流れ◇



【関係機関】

- ①多可町教育委員会（学校教育課 ３２－２３９５ こども未来課 ３２－２３８５）
- ②西脇警察署生活安全課（２２－０１１０）
- ③多可町青少年育成センター（３２－２３９５）

【相談窓口】

- ①多可っ子悩み相談（３２－３４２３）
- ②ひょうごっ子〈いじめ・体罰・子ども安全〉相談２４時間ホットライン
（０１２０－０－７８３１０）
- ③ひょうごっ子「ネットいじめ情報」相談窓口（０６－４８６８－３３９５）
- ④ヤングトーク（兵庫県警少年相談室）（０１２０－７８６－１０９）
- ⑤いのちの電話（０１２０－７８３－５５６）
- ⑥ほっとらいん相談（０７８－９７７－７５５５）
- ⑦子どもの人権１１０番（０１２０－００７－１１０）
- ⑧子ども悩みごと相談（０７８－３４１－８２２７）

いじめ早期発見のためのチェックリスト

いじめが起こりやすい・起こっている集団

記入日 年 月 日 ()

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 朝いつも誰かの机が曲がっている | <input type="checkbox"/> 教職員がいないと掃除がきちんとできない |
| <input type="checkbox"/> 掲示物が破れていたり落書きがあつたりする | <input type="checkbox"/> グループ分けをすると特定の子どもが残る |
| <input type="checkbox"/> 班にすると机と机の間に隙間がある | <input type="checkbox"/> 特定の子どもに気を遣っている雰囲気がある |
| <input type="checkbox"/> 学級やグループの中で絶えず周りの顔をうかがう子どもがいる | |
| <input type="checkbox"/> 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せつけない雰囲気がある | |
| <input type="checkbox"/> 些細なことで冷やかしたりするグループがある | |
| <input type="checkbox"/> 授業中、教職員に見えないように消しゴム投げ等をしている | |

いじめられている子

◎日常の行動・表情の様子

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> わざとらしくはしゃいだりおどけたりする | <input type="checkbox"/> にやにや、へらへらしている |
| <input type="checkbox"/> おどおどしている | |
| <input type="checkbox"/> いつもみんなの行動を気にし、目立たないようにしている | |
| <input type="checkbox"/> 下を向いて視線を合わせようとしない | <input type="checkbox"/> 表情が暗く、元気がない |
| <input type="checkbox"/> 早退や一人で下校することが増える | <input type="checkbox"/> 遅刻・欠席が多くなる |
| <input type="checkbox"/> 腹痛など体調不良を訴えて保健室へ行きたがる | <input type="checkbox"/> とくどき涙ぐんでいる |
| <input type="checkbox"/> 友だちに悪口を言われても言い返さなかったり、愛想笑いをしたりする | |

◎授業中・休み時間

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 発言すると友だちから冷やかされる | <input type="checkbox"/> 一人でいることが多い |
| <input type="checkbox"/> 班編成の時に孤立しがちである | <input type="checkbox"/> 教室へいつも遅れて入ってくる |
| <input type="checkbox"/> 学習意欲が減退し、忘れ物が増える | <input type="checkbox"/> 教職員の近くにいたがる |
| <input type="checkbox"/> 教職員がほめると冷やかされたり、陰口を言われたりする | |

◎屋食時

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 好きな物を他の子どもにあげる | <input type="checkbox"/> 他の子どもの机から机を少し離している |
| <input type="checkbox"/> 食事の量が減ったり、食べなかったりする | <input type="checkbox"/> 食べ物にいたずらされる |

◎清掃時

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> いつも雑巾がけやごみ捨ての当番になっている | <input type="checkbox"/> 一人で離れて掃除をしている |
|--|--|

◎その他

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> トイレなどに個人を中傷する落書きが書かれる | <input type="checkbox"/> 持ち物や机、ロッカーに落書きをされる |
| <input type="checkbox"/> 持ち物が壊されたり、隠されたりする | <input type="checkbox"/> 理由もなく成績が突然下がる |
| <input type="checkbox"/> 部活動を休むことが多くなり、やめると言い出す | <input type="checkbox"/> 服に靴の跡がついている |
| <input type="checkbox"/> ボタンがとれたり、ポケットが破れたりしている | <input type="checkbox"/> 手や足にすり傷やあざがある |
| <input type="checkbox"/> けがの状況と本人が言う理由が一致しない | |
| <input type="checkbox"/> 必要以上のお金を持ち、友だちにおごるなどする | |

いじめている子

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 多くのストレスを抱えている | <input type="checkbox"/> 家や学校で悪者扱いされていると思っている |
| <input type="checkbox"/> あからさまに、教職員の機嫌をとる | <input type="checkbox"/> 特定の子どもにのみ強い仲間意識をもつ |
| <input type="checkbox"/> 教職員によって態度を変える | <input type="checkbox"/> 教職員の指導を素直に受け取れない |
| <input type="checkbox"/> グループで行動し、他の子どもに指示を出す | <input type="checkbox"/> 他の子どもに対して威嚇する表情をする |
| <input type="checkbox"/> 活発に活動するが他の子どもにきつい言葉をつかう | |

教職員のいじめ対応チェックリスト

1 子どもの変化を見逃さないために

記入日 年 月 日 ()

【自身の行動】

- ☐ 子どもへ笑顔で積極的にあいさつをしている
- ☐ 子どもの顔を見ながら出席確認をしている
- ☐ 連絡帳・生活ノート等を確認している
- ☐ 授業において子ども同士の話し合いの場づくりを心がけている
- ☐ 休み時間等も子どもたちと一緒にいるようにしている
- ☐ 掃除の仕上がり（机の並び方、ゴミの取り残し等）を確認している
- ☐ 休み時間、清掃時等に声かけ（チャンス相談）をしている

【情報共有】

- ☐ 子どもの話題を日常的に職員室で取り上げている
- ☐ 気になる子どもの情報を職員室で共有している
- ☐ 養護教諭と情報共有をしている
- ☐ スクールカウンセラー（キャンパスカウンセラー）と情報共有をしている
- ☐ いじめに関するニュースや研修した内容等を、教職員同士で伝え合っている

【子ども・保護者への対応】

- ☐ 子どもの提出物や学習用具の忘れ物に気を配っている
- ☐ 子どもの体調（腹痛や頭痛等）に気を配っている
- ☐ 子どもの服装の汚れや破れ等に気を配っている
- ☐ 子どもの間のあだ名や呼び方に気を配っている
- ☐ 子どもの不適切な発言を聞き流さず、その場で注意・指導している
- ☐ 子どもの給食や弁当の食べ残しに気を配っている
- ☐ 教室の子どもの机の中を確認している
- ☐ 子どものがんばりを伝える通信づくりをしている
- ☐ 気になる子どもの家庭への連絡や家庭訪問をしている

2 適切ないじめ対応のために

【自身の行動】

- ☐ 自校の「学校いじめ防止基本方針」の内容を理解している
- ☐ 「いじめ防止対策推進法」の定義に基づき、いじめられている子どもの心情に寄り添って、いじめを認知しようとしている
- ☐ いじめアンケートから明らかになったいじめに関する情報を把握している
- ☐ 自校でいじめの防止等のために行っている校内研修やOJT等の内容を日常の指導に活かしている

【情報共有】

- ☐ 校内いじめ対応チームのメンバーを知っている
- ☐ 日頃から管理職や同僚と報告・連絡・相談ができる関係を築いている
- ☐ 子どもの気になる様子を見聞きしたら、どんな小さなことでも学年職員や管理職等に報告している
- ☐ 少しでもいじめが疑われたら、校内いじめ対応チームに報告している
- ☐ いじめアンケートの回答はその日のうちに確認し、他の教職員と情報共有している

【子ども・保護者への対応】

- ☐ 子どもに対し、いじめは絶対に許せない行為であることを、各教科、道徳科、特別活動等を通して、計画的に指導している
- ☐ 子どもに対し、いじめなどの行為を見聞きした場合には、見て見ぬふりをせず、必ず教職員に伝えるよう指導している
- ☐ 子どもや保護者に対し、授業、保護者会、学校便りなどの多様な機会を活用し、いじめ防止のための取組を伝えている
- ☐ 子どもや保護者に対し、いじめ等についての相談は学校以外の相談窓口でも行っていることを伝えている
- ☐ 子どもや保護者に対し、いじめアンケートの結果について必ずフィードバックしている

3 管理職としての校内体制づくりのために

【日々の体制】

- ☐ 学校いじめ防止基本方針を、職員会議等で共通理解している
- ☐ 日頃から教職員が管理職に報告・連絡・相談しやすい風通しの良い環境づくりに努めている
- ☐ いじめ発見の情報がすぐに管理職まで届くような体制づくりをしている
- ☐ いじめアンケートの結果がすぐに管理職へ報告されるような体制づくりをしている
- ☐ いじめアンケートの項目や実施方法について、校内いじめ対応チームで検討している

【計画的実施】

- ☐ 校内いじめ対応チームの会議を定期的実施している
- ☐ いじめ対応マニュアルを用いて職員研修を実施している
- ☐ いじめ問題に対して、地域・関係機関等との積極的な情報交換・連携ができるように会合を開いている

【年度毎の点検・評価】

- ☐ 学校いじめ防止基本方針を学校HPに掲載するとともに、保護者・地域や児童生徒へ説明し、意見を募っている
- ☐ いじめ問題に対する取組状況について、学校評価の項目の中に取り入れ、点検・評価し、必要に応じて改善している
- ☐ 学校いじめ防止基本方針を見直し、必要に応じて改定している

チェックリスト 兵庫県教育委員会 「いじめ対応マニュアル」より抜粋

<別表>

いじめ防止のための年間指導計画

	職員会議・研修等	未然防止に向けた取組	早期発見の取組
4月	○生活指導・いじめ対策委員会 (月1回開催:指導方針共通理解・年間計画・情報交換等) ○職員会議(学校いじめ防止基本方針等の共通理解等)	○学級開きにおける人権尊重およびいじめ防止についての啓発 ○PTA総会・学級懇談会(保護者への啓発と連携)	○学校生活相談シート(児) ○アイアイタイム
5月	○生活指導・いじめ対策委員会 ○校内研修(特別支援教育・学級経営交流会)	○「いじめ防止啓発月間」(5月)の児童会等の取組(集会での啓発等) ○ストレスチェック(全学年) ○学級づくり(体験学習等)	○家庭訪問 ○生活アンケート
6月	○生活指導・いじめ対策委員会 ○校内研修(いじめ問題対応研修)	○人間関係づくり(わんぱく班遊び) ○心の健康教育(全学年)	○学校生活相談シート(保) ○アイアイタイム
7月	○生活指導・いじめ対策委員会 ○校内研修(学級経営交流会)		○学校生活相談シート(児) ○生活アンケート ○個別懇談(全員)
8月	○校内研修(道徳・人権等) ○夏休みの補導	○こども園との情報交換会	
9月	○生活指導・いじめ対策委員会	○SNS出前授業	○アイアイタイム ○学校生活相談シート(児) ○生活アンケート
10月	○生活指導・いじめ対策委員会	○心の健康教育(全学年) ○ストレスチェック(全学年) ○いじめ予防授業(高学年:兵庫県弁護士会)	○学校教育評価アンケート
11月	○生活指導・いじめ対策委員会 ○人権週間に向けての取組	○人権作文・標語・詩・ポスターづくり	○アイアイタイム ○生活アンケート ○学校生活相談シート(保)
12月	○生活指導・いじめ対策委員会	○「いじめ防止啓発月間」(12月)の児童会等の取組(集会での啓発等) ○「あったか集会」の開催	○学校生活相談シート(児) ○個別懇談(全員)
1月	○生活指導・いじめ対策委員会		○学校生活相談シート(児)
2月	○生活指導・いじめ対策委員会	○参観日(全校道徳授業公開) ○心の健康教育(全学年)	○アイアイタイム ○生活アンケート ○学校生活相談シート(保)
3月	○学校教育評価検討会 ○生活指導・いじめ対策委員会 (取組のまとめ・次年度への課題等)	○小中情報交換会 ○こども園との情報交換会	
その他	○保護者や学校評議員会等による取組の点検・評価 ○いじめ対応に関する教職員研修	○毎月1日を「いのちと人権の日」と定め、児童が命と人権の尊さについて考え、振り返る日とする。 ○SNS学習会等の情報モラルに関する学習会の開催	

※月1回の職員会議で、児童に関する情報交換の場を持つ。